

不二製油グループ本社株式会社 2024 年度第 3 四半期 決算説明会 主な質疑応答

・日時	2025 年 2 月 7 日（金）16:00～17:00		
・出席者	取締役 兼 上席執行役員	最高財務責任者 CFO	前田 淳

Q. チョコレート用油脂 CBE の販売が順調に進んでいるが、今後の増産余地や単価要因での寄与の目線は。

A. 今年はカカオ価格の高騰を背景に CBE の販売数量は第 3 四半期累計期間で前年同期比 129%と堅調に推移している。今後も、CBE の強い需要が予想され、販売数量については、生産の効率化を進めることで増産の余地はあり、高まる需要に対応していく。単価については、強い需要を背景に一定程度の利益寄与を見込んでおり、利益貢献を期待している。

Q. 第 4 四半期のブラマーのカカオ特殊要因を除いた営業利益は、大きく改善を見込んでいるが、改善要因は。

A. カカオ価格高騰に対応した価格改定を進めており、第 3 四半期においては低調な販売により価格改定の浸透が遅れたが、第 4 四半期には販売の進捗と共に価格改定の効果が出てくることで、収益性の改善を見込んでいる。市場が低調なことから販売数量が低位に推移する懸念はあるが、足元の販売状況に合わせた計画としている。

Q. 今後のブラマーのカカオ特殊要因の見通しは。

A. カカオ特殊要因の先物評価については、第 3 四半期においてはカカオ価格の高騰により損失が拡大したが、今後はカカオ相場が安定的に推移すれば、影響は低減すると考えている。先物限月乗換コストは、先物限月間値差（スプレッド）が縮小傾向にあることに加え、乗換コストに対応した価格転嫁などを進めており、販売が進むことで効果が表れてくると考えている。販売期ズレに関しては、販売数量が伸び悩んだことで価格差の縮小が遅れている。来年度の定量見通しについては、足元の販売状況なども整理して、来年度の説明会で説明したい。今後もカカオ価格の変動は懸念点であるが、価格改定やカカオの管理強化などを進めており、着実に対応はできていると考えている。

Q. パーム油価格が上昇しているが影響は。

A. 価格の変動に合わせて適切に価格転嫁を進めていることから、一時的な損益のずれが出る可能性はあるが、収益への大きな影響は無いと考えている。

Q. 運転資本が大幅に増加しているが対応は。

A. カカオ価格の高騰、及び円安の影響に伴い増加している。有利子負債の増加に関しても運転資本の増加等が主要因である。カカオ価格の高騰は継続しているが、カカオ加工事業の縮小やグループ全体での資金管理を強化することで対応を進める。

以上